

# サメの高度総合利用に関する研究

－サメ肝油を用いた化粧品の試作について－

## Development of advanced utilization technology of sharks

－Trial productions of cosmetics made from shark's livers oil－

小笠原敦子

アブラツノザメの肝油について、化粧品原料へ利用に関する研究を行った。アブラツノザメの肝油は、工業総合研究所において、無臭的に調製されたものを使用し、リップクリーム、クリーム、泡ソープの試作を行った。マスキング剤として、ローズマリー精油とバニラ精油を用い、官能評価を行った。リップクリームおよびクリームについては、パッチテストを行った。また、サメ肝臓の脂肪酸組成の分析を行った。官能評価の結果、サメ肝油を化粧品原料として用いることで、嗜好的な低下は見られなかった。また脂肪酸分析の結果、若年齢相の肌に多いとされる「パルミトレイン酸」が多く含まれており、化粧品原料として、サメ肝油は有望なことが明らかとなった。



化粧品原料における脂肪酸組成比較 (％)

	馬油	オリーブオイル	コメヌカ油	エミュー油	サメ肝臓
パルミトレイン酸	7.0			1.2～5.7	6.3
オレイン酸	35.5	73.8	41.4	38.4～56.4	23.3
リノール酸	10.8	11.8	37.5	6.2～24.2	1.6
リノレン酸	9.5		1.6	0.1～1.8	
ミリスチン酸	3.2				4.0
パルミチン酸	24.9	9.8	16.2	17.5～26.4	23.6
ステアリン酸	5.5	3.2	1.8	7.2～12	4.4

新化粧品ハンドブックより